

土石防だより



三保松原（静岡県静岡市清水区）

静岡県支部通常総会	2
(一社)全国治水砂防協会通常総会	3
土石災害防止月間活動	4
• 急傾斜地パトロールの協働実施	
• 「みんなで防ごう土石災害(土石災害防止説明会)」開催	
土石災害に対する全国統一防災訓練	6
平成25年度(公社)砂防学会定時総会 並びに研究発表会「静岡大会」	7
門島地すべりの被害状況と対応	8
平成24年度砂防関係事業の代表的な完成箇所	9
わがまち(袋井市・富士宮市)	10
インフォメーション	11
募集お知らせ	12

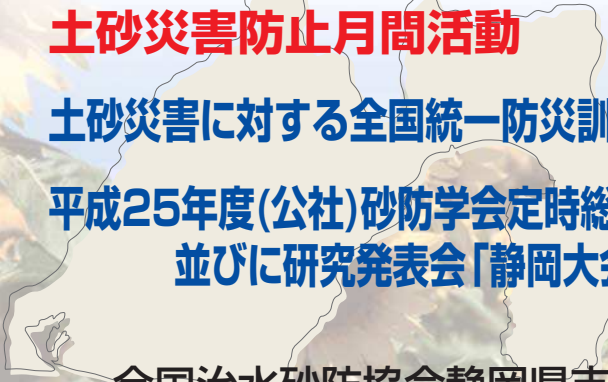
特集

第68回全国治水砂防協会 静岡県支部総会

土石災害防止月間活動

土石災害に対する全国統一防災訓練

平成25年度(公社)砂防学会定時総会 並びに研究発表会「静岡大会」



全国治水砂防協会静岡県支部

本県の砂防事業の重要性を訴える

静岡県支部通常総会を開催



原田支部長の挨拶

6月7日(金)、全国治水砂防協会静岡県支部の平成25年度(第68回)通常総会を静岡市内で開催しました。

総会では、支部長の原田袋井市長が議事に先立ち、浜松市天竜区春野町の地すべりに触れ、「土砂災害防止は、施設整備の推進とともに、ソフト対策の面で、住民自らが『自分の命は自分で守る』ことの重要性があらゆる場で認識されております。」と、砂防事業の推進、砂防協会による啓蒙活動、会員相互の連携及び国や県との協調の重要性を訴えました。

続いて、川勝知事、中谷県議会議員、大野国土交通省砂防部長、大久保全国治水砂防協会副会長より御祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成24年度の事業報告・収支決算報告、平成25年度の事業計画・収支予算、役員改選が原案どおり承認されました。滞りなく総会が終了できましたことを、関係各位に感謝申し上げます。



川勝知事の挨拶



大野砂防部長の挨拶



大久保副会長の挨拶



中谷県議会議員の挨拶

役員改選結果

支部総会で役員改選(案)が承認され、平成25・26年度の役員が決定しました。

支部長：原田英之 袋井市長 副支部長：須藤秀忠 富士宮市長、菊地 豊 伊豆市長

会計監査役：村松藤雄 森町長、相馬宏行 河津町長

委員：田辺信宏 静岡市長、鈴木康友 浜松市長、豊岡武士 三島市長、佃 弘巳 伊東市長、
中野弘道 焼津市長、太田長八 東伊豆町長、西原茂樹 牧之原市長、込山正秀 小山町長

顧問：長島郁夫 静岡県交通基盤部長 常任幹事：桜井孝洋 静岡県河川砂防局技監

土砂災害防止講習会が開催される

静岡県支部通常総会終了後、県内直轄事務所長、大久保副会長をはじめ、各市町長及び各土木事務所長等多くの参加者のもと、国土交通省水管理・国土保全局砂防部長の大野宏之氏を講師としてお招きし、「最近の砂防行政について」と題する講演会を開催しました。

平成24年及び平成25年現在までの、全国の土砂災害の発生状況とその対応、門島地すべりにおける国土交通省の支援状況、県内直轄砂防事務所の事業概要、国土保全に資する国土の監視・観測技術、防災教育の取り組み事例等、多くの項目に渡り講演をしていただきました。



講演会の様子



全国治水砂防協会通常総会が開催される

5月22日(水)、(一社)全国治水砂防協会の平成25年度(第77回)通常総会が、会員多数の出席のもと、砂防会館で開催されました。

当日は、静岡県選出国會議員をはじめ多くの国會議員が来賓として御出席されました。当支部からは支部長の原田袋井市長をはじめ10名の会員に御出席いただきました。

綿貫会長による挨拶の後、議案の審議が行われ、平成24年度の事業報告・収支決算報告、平成25年度の事業計画・収支予算、役員改選等が承認されました。

また、総会開会に先立ち、語り部(かたりすと)としてご活躍中の平野啓子氏(静岡県沼津市出身、大阪芸術大学放送学科教授、元NHKキャスター、静岡県「ふじのくに観光大使」)による「語りは心の絵画」と題した特別講演が行われました。

お忙しい中、御参加いただきました会員の皆様には心からお礼申し上げます。



総会の様子



綿貫会長の挨拶



平野氏の講演

本県の参加市町

袋井市、森町、河津町、東伊豆町、富士宮市、島田市、掛川市、伊豆市、伊豆の国市、函南町(計10市町) ※太字は本人参加

平成25年度「土砂災害防止月間」

6月1日(土)～30日(日)

毎年、日本各地で発生する土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害により、多くの人命や財産が失われています。

国土交通省と静岡県では、梅雨前線や台風により雨量が多く、地盤がゆるみ土砂災害が発生しやすい6月を「土砂災害防止月間」とし、土砂災害とその防止について県民の皆様の理解と関心を深めていただくため、様々な活動を行いました。

主な活動

- 急傾斜地パトロールの実施
- 啓発活動の推進
- 「みんなで防ごう土砂災害(土砂災害防止説明会)」の開催
- 土砂災害防止に関する絵画・作文の募集及び展示
- 土砂災害防止講習会の開催 など

表[平成24年に発生した土砂災害件数]

H24年土砂災害被害	土石流	地すべり	がけ崩れ	計
全国土砂災害被害件数	256	76	505	837
静岡県土砂災害被害件数	0	0	33	33

～住民と砂防ボランティアとの協働～

1 急傾斜地パトロールの実施

6月1日から6月28日に、県内の急傾斜地崩壊危険区域において、地域住民や砂防ボランティア、土木事務所、地域危機管理局、市町、警察、消防と協働で、土砂災害防止施設の異状の有無、法面の崩壊、排水路の機能状況などの点検をしました。

施設の破損や小規模な崩壊などの、異状が確認された箇所については、早急に改善措置を講じていきます。



急傾斜地パトロールの様子

2 市町における啓発活動の取組み

各市町では、広報誌、ホームページ等を活用して、土砂災害対策の重要性を広報していただくとともに、庁舎の横断幕・懸垂幕の掲示、公用車を活用した啓発・広報の実施、土砂災害防止講習会の開催など、土砂災害防止啓発活動に取り組んでいただきました。



立看板の設置(静岡県庁正面玄関)



平成25年度 土砂災害防止月間ポスター

の取り組み

広報誌への掲載	静岡市、沼津市、伊東市、焼津市、藤枝市、下田市、湖西市、伊豆市、河津町、西伊豆町、函南町、川根本町
ホームページで広報	掛川市、伊豆市、河津町、南伊豆町、函南町
土砂災害防止講習会の開催	静岡市、浜松市、沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、伊豆市、菊川市、伊豆の国市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町、小山町、川根本町、森町
ラジオ、テレビ放送	K-mix「静岡デイリーメッセージ」、同報無線(御前崎市)
ポスター掲示	県内ローソン202店舗におけるポスター掲示

3 「みんなで防ごう土砂災害(土砂災害防止説明会)」の開催

6月1日(土)、土砂災害の恐ろしさや、砂防事業の重要性を県民のみなさまに理解していただくため、静岡市葵区の青葉シンボルロードで「みんなで防ごう土砂災害(土砂災害防止説明会)」を開催しました。

この行事は、平成8年から「砂防フェスタしずおか」として開催してきたもので、国土交通省静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、静岡県、静岡市、静岡地方気象台が共催し、土砂災害防止に関するパネル展示などを行いました。



会場の様子



土砂災害に対する 全国統一防災訓練を実施



小山町
(災害対策本部設置)

～「早めの避難」家族を守る合言葉～

6月2日(日)、県下一斉に「土砂災害に対する防災訓練」を実施しました。

この訓練は、梅雨前線等の豪雨による土砂災害の発生に備え、災害に対する警戒避難体制の確認と防災意識の向上を図ることを目的に、毎年、統一実施日を定め全国の市町村で実施しています。

本県では、統一実施日に23市町で地元地域住民や行政関係者など約2,300人の参加により、情報伝達訓練や避難勧告に伴う避難所への避難訓練、ハザードマップの作成などが実施されました。

また、6月2日以外の日にも、7市町で約500人の参加により訓練が実施されました。

訓練参加市町

静岡市、浜松市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、伊豆市、御前崎市、菊川市、牧之原市、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町、小山町、川根本町、森町 (計30市町) ※沼津市は今後予定

訓練の状況



下田市下大沢地区
(避難誘導)



伊東市鎌田地区
(ハザードマップ作成)



函南町
(防災講習会)



小山町湯船・柳島地区
(要援護者避難支援)



富士市富士川地区
(ハザードマップ作成)



富士宮市大中里地区
(安否確認)



藤枝市北方地区
(要援護者避難支援)



島田市川根町家山地区
(防災講習会)



袋井市宇刈地区
(避難誘導)



掛川市西南郷地区
(防災講習会)



森町東組地区
(避難誘導)



磐田市豊岡大平地区
(ハザードマップ作成)

平成25年度(公社)砂防学会定時総会 並びに研究発表会「静岡大会」の開催

平成25年5月29日(水)から31日(金)の3日間にわたり、(公社)砂防学会が主催する定時総会並びに研究発表会が静岡県で開催され、全国から960人を超える参加がありました。

定時総会・特別講演(5月29日午前)

定時総会では、(公社)砂防学会岡本会長による挨拶の後、森山副知事の来賓挨拶で、「砂防の技術は、砂防事業のみならず道路法面対策等の他分野においても活用されていること、世界文化遺産の登録勧告を受けた富士山の大沢崩れ等の対策を国の砂防事務所がしっかり対応していること、今年4月に発生した浜松市天竜区春野町の地すべりでは、国土交通省や静岡大学教授の土屋先生のアドバイスにより迅速な対応ができたこと」などが紹介されました。

その後、東京大学名誉教授笠原先生を講師に招き、「地震波精密人工震源を用いた地下の連続監視技術とその応用」をテーマに特別講演が行われました。



森山副知事の来賓挨拶



研究発表会

研究発表会(5月29日午後・30日)

5月29日午後から開催された研究発表会は、6会場に分かれて、行政、研究機関、民間企業などから研究成果や事例など口頭発表174件、ポスターセッションによる発表183件がありました。

県内からは、平成22年の小山町災害関連緊急砂防事業の事例や、口坂本地すべり、富士山をテーマとした研究の発表がありました。



現地研修会(富士山大沢扇状地)

現地研修会(5月31日)

研修会は富士山周辺、伊豆コースに分かれて実施しました。富士山周辺コースは、静岡市内の桂山沼側災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業、由比地区地すべり対策事業、富士山砂防(大沢扇状地)などを見学し、伊豆コースは駿河湾フェリー(県道223号)を使い、清水港から土肥港へ渡り伊豆市内の災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業、狩野川砂防の堰堤、伊豆半島ジオパークの白鳥山柱状節理等を見学しました。

当日は晴天だったものの、雲が多く富士山を拝むことはできませんでした。しかしながら、富士山砂防の規模の大きさや柱状節理の大地の神秘に心を奪われたことは言うまでもありませんでした。



現地研修会(伊豆半島ジオパーク)

門島地すべりの被害状況と対応

1. 地すべりの概要

- ・発生場所 静岡県浜松市天竜区春野町杉地先（浜松市中心部より北東約40km）
- ・発生日 崩壊は、平成25年4月23日から断続的に発生した。
- ・規模 幅160m、高さ150m、深さ15m、崩壊推定土砂量75,000m³
- ・被害状況 河川：土砂閉塞（延長100m）、農地：茶畑（面積0.5ha）



写真-1 崩壊発生前 (H25.4.22 撮影)



写真-2 崩壊発生後 (H25.4.27 撮影)

2. 監視体制及び避難勧告

県では、崩壊発生前から伸縮計3基設置すると同時に遠隔監視装置を設置し、地すべりの挙動を24時間監視するとともに、市、住民に情報提供しました。また、伸縮計による監視基準を設け、市とともに警戒避難体制を整備しました。



写真-3 地すべり挙動の監視体制 (崩壊後、H25.5.13の監視状況)

表-1 伸縮計による監視基準

区分	要注意	警戒	避難
基準値	1日1mm以上	1日10mm以上	時間2mm以上を2時間継続または、1時間4mm以上

4月21日23時30分に伸縮計で11.8mm/hの動きを観測したため、浜松市は住民避難を要する危険度に達したと判断し、対象世帯に避難勧告を行いました。その後、4月23日の大規模な崩壊以降、斜面内の不安定土塊はほぼ崩落し、観測機器でも大きな変状が確認されなかったため、避難勧告は解除されたが、県及び市では引き続き監視体制を継続しています。

日時	避難勧告対象
H25.4.21 23:50	6世帯 24人
H25.5.1 19:00 (一部解除)	3世帯 16人
H25.5.16 17:00 (全部解除)	—

3. 応急対策工事

4月23日に発生した地すべりによって、崩壊斜面下部を流れる杉川の4/5が閉塞し湛水を確認したため、県は応急対策として仮排水路工を実施しました。仮排水路工事は地元建設業者の昼夜を問わない頑張りで、発生から15時間で完成し、設置翌日の4月25日の雨では仮排水路の通水を確認しました。

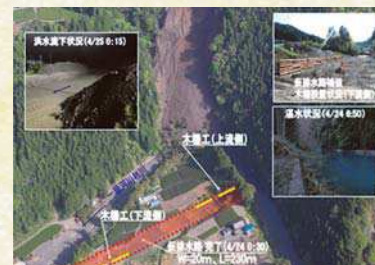


写真-4 仮排水路設置状況

4. 検討委員会

静岡大学農学部の土屋教授を委員長に、独立行政法人土木研究所、国、県及び市の学識経験者や専門技術者で構成する、「門島地すべり対策検討委員会」を設置し、地すべり機構の解析や対策工、警戒避難体制等について検討を行いました。

区分	日時	検討内容
第1回	H25.5.1	立入規制エリアの設定
第2回	H25.5.16	地すべり対策の方針、立入規制エリアの見直し
第3回	H25.7.16	地すべり対策の実施計画

5. 国土交通省からの支援

地すべり発生初日から国土交通省砂防部、中部地方整備局、静岡河川事務所、浜松河川国道事務所、独立行政法人土木研究所の皆様においては迅速に技術支援をいただきました。

特に中部地方整備局からはテックフォース職員による24時間体制の斜面監視、照明車と衛星通信車による24時間体制の映像配信等の設置をしていただきました。

6. 災害関連緊急地すべり対策事業の採択

次期降雨等による崩壊の拡大を防止するため国へ事業申請したところ、6月27日に採択されました。

■事業概要

事業費：約10.3億円 事業内容：横ボーリング工、吹付法砕工、アンカー工など

砂防関係事業の代表的な完成箇所

砂防事業

やなぎしま がわ

●柳島川砂防堰堤工（駿東郡小山町柳島地先）



小山町では、平成22年9月の豪雨により甚大な被害が生じたため、災害関連緊急砂防事業により4渓流の整備を行いました。柳島川では砂防堰堤を1基整備し、下流域の人家18戸、町道の保全を図りました。

かぎ わ さわ

●鍵ワ沢砂防堰堤工（静岡市葵区坂本地先）



鍵ワ沢では、平成23年7月の豪雨により大規模な山腹崩壊が生じたため、砂防堰堤を1基整備し、下流域の人家13戸と市道の保全を図りました。

●砂防事業

※平成24年度に工事を実施し完成した箇所が対象 ※「柳島川」の事業費には野沢川堰堤を含み、()内は災害関連砂防事業費

箇所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
深良川右支川	裾野市深良	149	H21	砂防堰堤工 H= 8.0m L=39.5m
守木山田川	伊豆の国市守木	223	H18	砂防堰堤工 H=12.5m L=49.0m
柳島川	駿東郡小山町柳島	540(329)	H22	砂防堰堤工 H= 14.0m L=77.5m
鍵ワ沢	静岡市葵区坂本	100	H23	砂防堰堤工 H= 9.0m L=62.5m
坂本川	静岡市葵区口坂本	185	H22	砂防堰堤工 H= 14.5m L=60.3m
植田西沢	浜松市天竜区春野町豊岡	152	H21	砂防堰堤工 H= 7.0m L=32.5m
稻生沢川支川箕作沢	下田市箕作	84	H19	溪流保全工 L=120.0m
黄瀬川支川梅の木沢川	駿東郡長泉町南一色	111	H21	溪流保全工 L=144.4m
大場川	裾野市茶畑	45	H23	溪流保全工 L=8.0m
野沢川支川湯船川	駿東郡小山町湯船	25	H23	流木止め工 N=1基
血流川	富士市南松野	35	H22	溪流保全工 L=138.4m
滝沢	藤枝市滝沢	80	H23	砂防堰堤工 H=11.6m L=35.5m
気田川支川熊切川	浜松市天竜区春野町田河内	98	H21	溪流保全工 L=443.0m
都田川支川伊佐地川	浜松市西区湖東町	41	H22	溪流保全工 L=80.0m

急傾斜地崩壊対策事業

しもふなばらのはらのまえ

●下船原原之前急傾斜 (伊豆市下船原地内)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家28戸の保全を図りました。

にし の だ

●西野田No.3急傾斜 (静岡市葵区坂本地先)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家35戸の保全を図りました。

地すべり対策事業

うえむら

●上村地すべり (浜松市天竜区水窪町地頭方)



地すべり対策事業を、平成10年度から実施し、人家87戸と指定避難地及び県道、一級河川の保全を図りました。

●急傾斜地崩壊対策事業

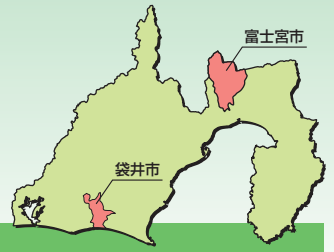
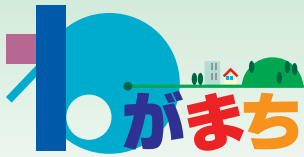
※平成24年度に工事を実施し完成した箇所が対象

箇所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
入沢	下田市河内	137	H21	擁壁工 L=153m
下船原原之前	伊豆市下船原	255	H20	擁壁工 L=271m
上稲子北ヶ谷戸	富士宮市北ヶ谷戸	142	H21	擁壁工 L=284m
松富一丁目	静岡市葵区松富上組	80	H22	擁壁工 L=135m
西野田No.3	島田市野田	212	H21	擁壁工 L=374m
勝間大沼	牧之原市勝間	219	H20	擁壁工 L=300m
石原八幡ヶ谷A	菊川市下平川	92	H22	擁壁工 L=201m
西川	浜松市天竜区龍山町大嶺	326	H19	擁壁工 L=170m
東伊場稲葉山	浜松市中区東伊場	98	H21	法面工 L=132m

●地すべり対策事業

※平成24年度に工事を実施し完成した箇所が対象

箇所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
上村	浜松市天竜区水窪町地頭方	1,045	H10	集水井工6基、横ポーリング群4群



袋井市

袋井市は静岡県西部に位置し、太田川や原野谷川、浅羽海岸をはじめ、のどかな田園風景や美しい茶畑等の自然環境、遠州三山や旧東海道等の歴史的資源・文化的資源にも恵まれており、豊かな自然と歴史と文化を培った田園都市として発展してまいりました。

また、健康で快適な質の高い生活を志向する「日本一健康文化都市」を宣言し、「心の健康、からだの健康、まちの健康」を目指して、様々な施策を展開しております。

さて、本市にあります土砂災害危険箇所の内訳は、土石流危険渓流が32箇所(要対策7箇所)及び急傾斜地危険箇所が220箇所(要対策30箇所)となっております。このうち、要対策箇所の37箇所について、県が計画的に土砂災害防止施設の整備(ハード対策)を進めていくことになっており、これまでに10箇所の対策が完了しています。現在11箇所目の整備に向け準備中であり、残り26箇所についても引き続き促進を図って参ります。

また、これらのハード対策と併せ、土砂災害ハザードマップの作成や必要な情報を提供するなどのソフト対策も実施しており、今後も住民が安全で安心して暮らせるよう、防災意識を高め、災害に強いまちづくりを目指して努力してまいりますので、関係各位のなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



三輪平左工門急傾斜地



平成の命山(袋井市湊)平成25年10月完成予定



富士宮市

富士宮市は平成22年3月に旧芝川町と合併し、面積は389km²、人口135千人の市であります。市域は富士市と隣接する部分の海拔35mから富士山頂の3,776mまでの日本一高低差のある町です。

市の特徴としては、富士山西麓の広大な朝霧高原で、乳用牛・肉用牛が13,000頭飼育されております。また、富士山や毛無山系からの恵である豊富な湧水や伏流水を利用したのニジマスの養鱒業も盛んで1,100トン/年の生産があり、鱒の甘露煮、鱒のあらい、鱒バーガーなど大変美味しくいただけますので、来宮の際にはご賞味してください。

皆様もご存知のように、平成25年6月22日には富士山がめでたく世界文化遺産に登録され、正式名称は少し長くなりますが「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」となりました。日本の象徴・世界の宝となった富士山には、山静両県の広範囲に渡り25箇所の構成資産があり、この内富士宮市には6箇所があります。今後はこれら資産の保護・保全及び活用をしながら後世に長く継承していかなければなりません。

当市は、富士山の南西麓にある町であり、富士山が活発な噴火活動をしていた時代には現在の市街地まで溶岩流が到達しており、市街地でも縄目状の溶岩の露頭を見ることが出来ます。山麓の町であり富士山から湧水を初めとする多くの恩恵を受けている反面、台風などの豪雨により土石流の被害を度々受けてきました。

このため、大沢川を始めとする南西麓野溪において、昭和43年から国土交通省富士砂防事務所による直轄砂防事業を進めております。大沢川扇状地では幅約1.0km、延長約2.5kmの中で、大規模な床固工や導流堤が築造され平成21年には概成しました。このように富士砂防事務所には、市民の安全安心な暮らしを守るため多大な貢献をしていただき感謝しております。



国土交通省 富士砂防事務所 提供



富士山南西麓にあるまち 富士宮市

大内グリーンベルトモデル地区で恒例の「タケノコ掘り」イベントを実施

平成25年4月28日(日)、静岡市清水区の大内グリーンベルトモデル地区内の杉谷津沢で、地元の小学生たちを対象に恒例のタケノコ掘りが行われました。

このタケノコ掘りは、竹林の増殖を抑制し、健全な法面を保持する大切な作業であり、子供たちの貴重な体験学習になることから、「わんぱくたかべ倶楽部」(地元PTAボランティア)が計画し、「森と水辺を育てる会」が協力する形で行われています。

この日は、地元の高部小学校、高部東小学校の親子も含め約100名の参加があり、育てる会の指導のもと行われました。

子供たちは、1年を通して学びながら里山の維持管理などに取り組んでいます。



砂防堰堤前で全体説明



家族で仲よくタケノコ掘り

第2回 富士山火山防災対策協議会が開催される

5月9日(木)、山梨県甲府市の山梨県立図書館で「富士山火山防災対策協議会」の第2回全体会合が開催されました。同協議会は、火山専門家、国、静岡・山梨・神奈川県、市町村等約60の関係機関が参加し、昨年6月8日にグランシップで発足したものです。今回の会議では、昨年度策定の「溶岩流」に対する避難計画案を了承する一方で、「降灰」に関する避難計画、「融雪型火山泥流」からの避難方法の検討などを行う方針が確認されました。

一方、5月29日、静岡、山梨県の15市町村でつくる「環富士山火山防災連絡会」は、山中湖村老人福祉しあわせセンターで総会を開き、本年度の事業計画などを決めました。



第2回全体会合の様子 or 会議の様子

地すべり学会中部支部総会が開催される

5月15日(水)、平成25年度(公社)日本地すべり学会中部支部総会及び講演会が長野県長野市で開催されました。総会では、支部長による主催挨拶、長野県砂防課長の来賓挨拶に続き、議事では平成24年度の事業報告・収支決算報告書、平成25年度の事業計画・収支予算が承認されました。

また、信州大学准教授、廣内大助氏による「活断層と変動地形学-変動地形から何がわかるのか」や天竜川上流河川事務所所長、中谷洋明氏による「深層崩壊と深層崩壊評価マップ」や静岡大学教授、土屋智氏による「四川地震にともなう大規模土砂移動とその後」と題した特別講演が行われました。

「第6回 親子で大谷崩れの森づくり」イベントが開催される

5月25日(土)静岡市の大谷崩れで「いのち森づくり少年団を支援する会」による「第6回親子で大谷崩れの森づくり」が開催されました。

当日は、静岡県内在住の方が約80名参加され、実生種のヤシャブシやヤマハノキの苗木を入れた再生紙鉢を山腹に植樹しました。

また、静岡河川事務所担当者から大谷崩れの歴史、山腹工・直轄砂防事業等の重要性について写真パネルを使って参加者に説明し、参加者には安倍川上流域での砂防事業へ理解を深めていただきました。



参加者による植樹の様子

全国建設研修センターの現地研修が小山町の災害現場で実施されました

6月13日(木)、全国建設研修センターの「砂防等計画研修」の現地研修が平成22年の台風9号により土石流災害のあった小山町において災害関連緊急砂防事業の工事現場で実施されました。全国から若手砂防技術者22名が参加し、砂防課と沼津土木事務所の担当者が災害の概要や災害関連緊急砂防事業の申請のポイント、新工法や現場の安全対策等について説明を行い、活発な意見交換が行われました。



工事担当による説明の様子

【平成25年度】土砂災害防止啓発用品の紹介等

当支部では、土砂災害防止啓発のため、下記の啓発用品を作成・配布しました。御活用いただきありがとうございました。



募 集 コ ー ナ ー

土砂災害防止に関する絵画・作文の募集

今年度も、土砂災害の恐ろしさや土砂災害防止についての理解と関心を深めるため、絵画・作文を募集します。

【募集対象】 小・中学生 【応募期間】 6月1日～9月15日

【応募方法】 作品には応募者の学校名（ふりがな）、学年、氏名（ふりがな）、を明記して下さい。

【応募先】 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
静岡県交通基盤部砂防課 土砂災害対策班
TEL 054-221-3044 FAX 054-221-3564

詳細は、砂防課ホームページからご覧いただけます。
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



ジオフォーラム 2013 IN 静岡

【日 時】 2013年10月18日(金) 9:30～17:00

【会 場】 静岡県建設技術監理センター

※全国治水砂防協会が協賛しています。

参加
無料

平成25年 8-12月 砂防関係の 主な行事

- 8月22日(木)～24日(土) 市町長等砂防事業県外視察(青森県)
- 8月28日(水)～31日(土) 第52回(公社)日本地すべり学会研究発表会(島根県)
- 9月 1日(日) 防災の日
- 10月17日(木) 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議
- 11月 上旬 市町等砂防担当職員研修
- 11月19日(火) 全国治水砂防促進大会(砂防会館)
- 11月19日(火) 砂防関係事業促進要望(議員会館等)



【表紙写真】 三保松原

〈撮影地〉静岡県静岡市清水区
静岡県文化・観光部文化芸術局世界遺産推進課より
※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様の御協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編 集 ・ 後 ・ 記

4月23日、静岡県浜松市天竜区春野町杉(門島地区)において、大規模な地すべりが発生しました。被害を最小限に留められたのは、国・県・市・企業・県民、他すべての方々の連携があってこそだと改めて認識いたしました。関係者の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。
人的被害を出さないためにも、一人一人の防災意識と早めの避難が重要となりますので、当協会におきましても誌面等を通じて、すこでも県民の皆様のお役に立てるよう、積極的な土砂災害・砂防事業関係の情報提供に努めてまいりたいと思います。今後とも当協会への御理解と御協力、また砂防だよりの御愛読をお願いいたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第181号 発行日：平成25年7月15日

編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564 E-mail : sabo@pref.shizuoka.lg.jp